

地上絵で「ありがとう」

西上音更小 閉校記念で畑に

【土曜】西上音更小学校が来年3月に閉校するのを（川上裕明校長、児童11人）前に、地元農家の有志が校



校舎に隣接する畑に作られた校章と「99年間ありがとう」の文字。左下は児童ら（ドローンで新井拓海撮影）

▶ 動画は電子版で

舎に隣接する畑で、地上絵を制作した。校章と「99年間ありがとう」というメッセージを描いた。15日には上空から地上絵を撮影、写真は閉校記念誌の表紙に採用する。

地域住民でつくる実行委員会が、閉校記念事業の一環として行った。事務局長の足立雅人さんの約4秒のえん麦畑の一部を、GPS（全球測位システム）を使ったトラクター数台で刈り取り制作した。図案は同校の岩佐隆二教頭が考案し、JA土幌町の仲野貴之さんがトラクターの設定を担当した。

15日の撮影会では、同校のイベントなどを撮影してきた町内の平田建設が小型無人飛行機（ドローン）を飛ばし、児童と一緒に空から記念撮影を行った。上空からの画像をモニターで確認した6年生の川村愛結さん（12

は、「思っていたより文字が大きくて驚いた。閉校は寂しいけれど最後まで学校生活を頑張りたいと笑顔。PTA会長の川村真喜さん（34）は「子どもたちの一生の思い出になれば」と話していた。（安倍諒）

来年3月閉校の西上音更小

感謝の思い地上絵に

【十勝】1919年(大正8年)に開校し、本年度末で閉校する西上音更小への惜別と感謝の思いを形にしようとして、西上音更地区の農家らが近隣の畑に地上絵を描いた。15日は児童らと交え、ドローンを使った記念撮影が行われた。同校の閉校事業実行委の

発案。地上絵は約4畝の畑に植えられたエン麦の一部を刈り取り、同校の校章と「99年間ありがとう」のメッセージを描いた。町農協職員が技術面で協力し、10月上旬に畑の所有者や地区の農協青年部員ら5人が衛星利用測位システム(GPS)を搭載したトラクターを使い、3時間かけて制作した。川上裕明校長は「地域が一丸となって、閉校に寄せる思いが伝わった。児童の一生の思い出になる」と話した。

15日は町内の平田建設がドローンを使って空から記念撮影。全校児童11人らは離陸するドローンに手を振

ったり、この日初めて見る地上絵の全体写真に喜んでりした。東井咲さん(6年)は「校章が細かくてすごい。残り少ない時間だけど、いろいろしてくれた地域の方に恩返しをしたい」と話していた。

(大庭イサク)
電子版に動画



⑤広い畑に惜別のメッセージを描いた地上絵 (小型無人機使用)
⑥飛び立つドローンに手を振る児童たち (いずれも北波智史撮影)